

武蔵野市医師会会長 田原医院院長

田原順雄さん

利他の心を忘れずに
どうすれば地域に
貢献できるのかを
常に考えています



武蔵野市と連携しながらコロナ対応に取り組む武蔵野市医師会。目下、急ピッチで進むワクチン接種の状況や今後の展開などを武蔵野市医師会会長で田原医院院長の田原順雄さんにお聞きしました。

昨年来、武蔵野市医師会はコロナ対応に奔走する日々です。昨年はPCR検査の体制づくり、そして今年に入ってから、できるだけ早く市民の方々にワクチンを接種してもらえよう、武蔵野市とも緊密に連携を取りながら接種の体制づくりを進めてきました。現在、武蔵野市ではワクチンの集団接種と個別接種を並行して実施し、さらに福祉施設や障害者施設への訪問接種を行うなどの柔軟な体制によってスムーズに接種が進んでいる状況といえるのではないのでしょうか。

集団接種だけでなく、かかりつけ医などでの個別接種も並行して進めるのは、患者さんからの希望でもありました。武蔵野市は人口約14万8千人に対して医師会会員の医療機関だけでも約180あり、近隣と比べても充実した医療体制を誇っています。その医療体制の中で、かかりつけ医による接種は、患者さんの最も近くで病状を把握しているため、問診に時間がかからず速やかに行えます。また、患者さんからすれば、自分の基礎疾患について熟知する医師にワクチンを打ってもらうのは安心にもつながるはずで。

ワクチン接種は強制ではありませんが、治療がない中、感染を抑え込むには大勢の人がワクチンを接種することも1つの手段です。接種に不安を持つ高齢者の方は、かかりつけ医などに相談してみてもいいでしょう。今後は、行動が活発な若い世代にも、いかに速やかにワクチンを接種してもらえるのが感染抑制の力ギになるのではないのでしょうか。

私が武蔵野市医師会の理事になって26年、会長になって4年がたちました。本来、任期は4年ですが、コロナ禍の状況下ですので、もうしばらくは会長を続けていくことになりそうです。武蔵野市医師会では「利他の心を忘れずに地域に貢献できる医師会」をモットーに掲げています。私は「貢献」という言葉が好きで、仕事をする上でのモチベーションと捉えています。報酬のためだけに仕事をしていても限界があります。どうすれば地域に貢献できるかを常に考えることが大切です。そのほうが自分も充足感を得られます。幸い医師は人に貢献できるチャンスに恵まれた職業ですから、これからもその立場を存分に生かしていきたいですね。

田原順雄（たはら よりお） 杏林大学大学院医学研究科博士課程修了。同大学病院第2内科（循環器内科）勤務を経て、1991年に田原医院の院長就任。1995年より武蔵野市医師会理事として一般診療とともに地域医療の体制づくりに携わる。趣味は音楽。聴くのはもちろん、アコースティックギターを弾くのも好きだという。「ザ・フォーク・クルセダーズの北山修さんに憧れて始めました。最近はあまり弾けていないのですが」とほほ笑む。

